

z70 組立て 祖素素原稿版

cz70では、法定速度内30kmでの走行をベースに、特に第一ロットではロードレース用ワークスマシンの経験値を生かしkozaruならではの軽量化設計に挑戦しています。超限定品です。とはいえ試作開発中です。まだまだ作成はじめてです。すみません。

まずは飲み物でも手にとって...

当ページはfaxなどで、部分印刷などに用いています。

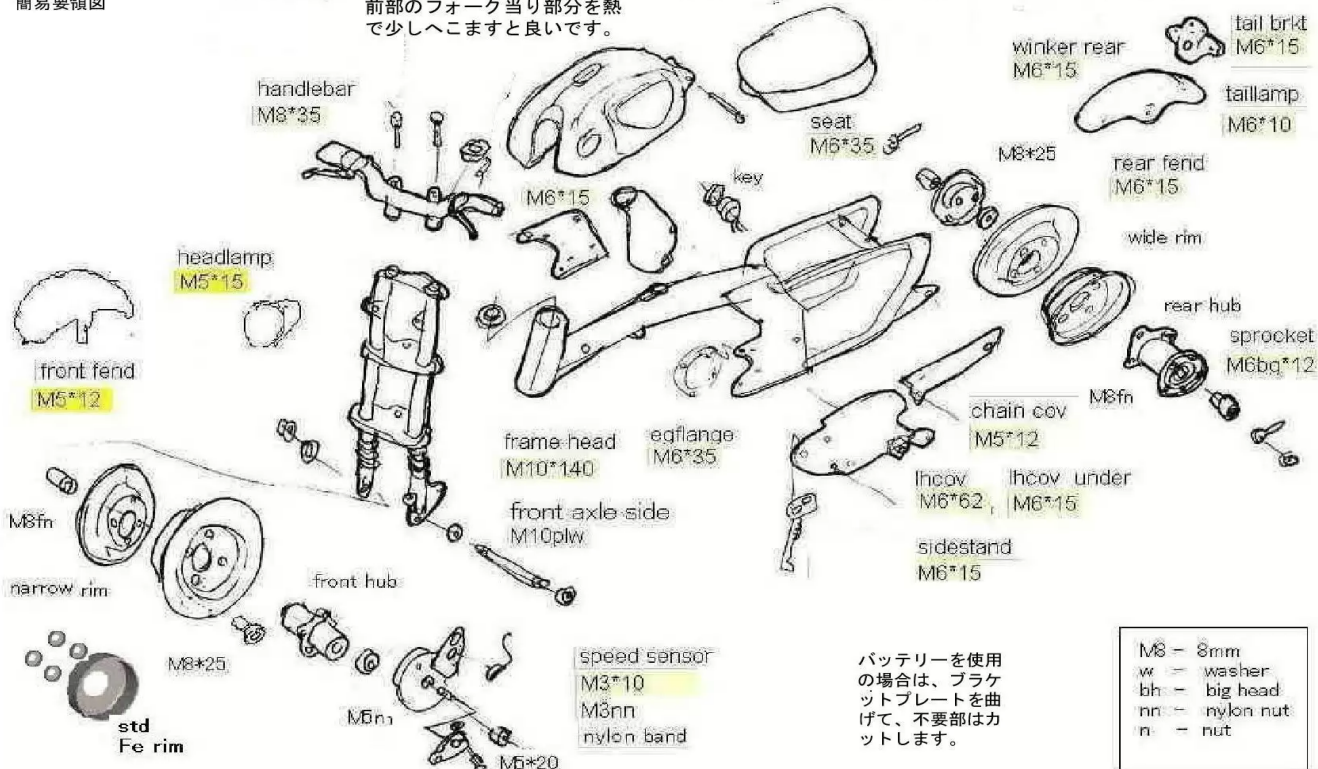
祖画 axle nut(車軸) 部にはM10平ワッシャーを使用してください。 Cp クロームめっき nn ナイロンナット plw 平ワッシャー

www.kozaru.us/cz/asyprint.html

簡易要領図

タンクは切り出します。なるべく後ろにセット。前部のフォーク当り部分を熱で少しへこませると良いです。

シートステーは中央部でカット、後部は代替プレートで位置を変え、シート位置をなるべく後ろにセットしてください。



事前情報

● 下ごしらえ タップ通しをしておくとな楽な部分.

- 1 ワイヤ受けスクリュー *フロントフォーク下部 *リヤブレーキブラケット M6タップしておくか、先にスクリューをつけておきます
- 2 ハンドルパイプ取り付け; M8ネジ部-ネジとうし。パイプはめ合い部、塗膜の除去をしてください。1,2とも塗装膜圧が厚くしてある為です。

●ホイール:
ホイールは、バラです。(ベアリングは入っています)丁寧に、確実に、精度調整を考慮しながら組んでください。

●ブレーキパネル:
ブレーキパネルは、仮組みしてありますが、確認しながら組んでください。

●指が太い場合は、ラジペンとか、頭を使ってください。

●残念ながら、パーツグレープは、梱包のため一部すでにカットしてありますがお許しください。また、パーツグレープのカットはZ31Aより楽になってしまいました、特にプラモファン系の方には申し訳ありません。

●すべての部品は、いったん仮組みの後本組みにするのは当然としています。こうして試作車を組立てる気分を一度味わってください。

● アクスルの両端はナット式にしたままです。抜き差しの工夫で、組見やすくしてあります。通常ボルトよりも高いコストで、このために買った方式で、トーハツランベットで得た少年時の体験をいかしています。

●ほとんどの部品はCZ70では専用にしてあり大赤字です。この機種では特に、あまりいじめないでください。再生産は不可能でしょうね。

● ブレーキケーブルのホイール側には太鼓カバー(黒)が付いていますが、外して下さい。

● スピードメーター用マグネットをフロントホイール側に取付けます。ドラム自体の寸法はマグネット穴以外は前後共通です。

●タイヤの向きは合わせた方が綺麗です。

●チューブががままないように、チューブ(チューブがフニョフニョになるくらい)に、少しだけ空気を入れてから組んでいきます。

● 組立てたときにチューブが噛んでいないか良く確認してから空気を入れます。

- ブレーキドラム、リム、インナーハブ(フロント)、ドリブンハブ(リヤ)は、それぞれ正しく組み締まっているかなど、作業をよく確認し、不安があれば、組みなおすなどしてください。
- CZ62ではエンジンの右プレートとフレームの間に上下にM6ワッシャー積層品を使用してください。(8ミリほどですので8枚)

パーツグレーブからの部品の切り出し

パーツグレーブを大きく、切り出しましたら、部品化していきます。
フェンダーはスジ通りに切ってください。多少大きめでも組んだあとでも加工は出来ます。

工具は鉄ノコの歯や、カッターを使って切り出します。

前後フェンダー、タンクカバーを切り出し、後に丁寧に仕上げてください。
残ったプラ材の一部はあとで役に立つかもしれないので、保存出来れば良いと思います。

フロントフェンダー取り付け

フェンダーなしで、ホイールの組み付け組み立てを確認したら、ホイールをはずして、フェンダーをつける。
フェンダーの取付部は、上側はM5平ワッシャーをフェンダーとフォークの間に各2枚入れてください。

リヤフェンダー取付けでは少しフェンダーを開くようになっています。

タンク取り付けは、あとの工程でも大丈夫です。説明のため組んだ画像です。

○ タンク相当形状部は、画像のように、該当部の谷でまずカットします。プラカッターやノコ歯がいいと思います。
この位置は、パイプとのピタリ線になっています。



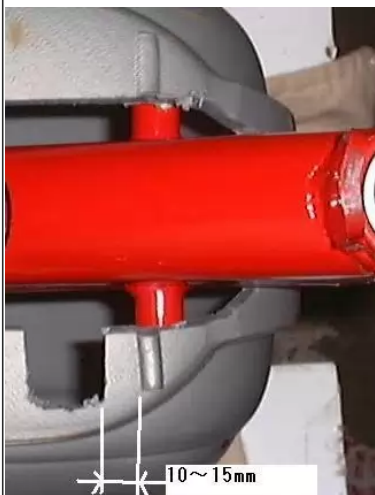
なお、タンク上部の円中部は

プライヤーなどで口を広げ、キャップが抜けないようにします。シリコンシーラーなどで接着してください。もし、将来金属タンクが出現したときは、このキャップを利用してください。(画像追加)
タンクカバーの前はフレームのパイプで押さえるようになっています、

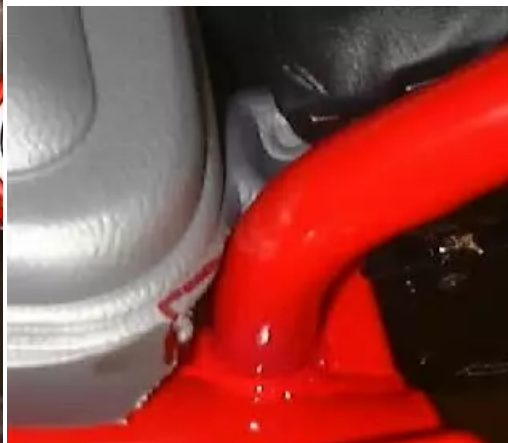


タンク前部はフレーム上部、フロントフォークと当たる部分があります。完全に組立て後、位置を決めて、該当部をライターなどで熱してへこますなどしてください。スタイルを追いついた結果です申し訳ありません。

タンクカバーの左前下の切欠きは頑張れば、エンジンを載せていなければ、特に切らなくても取り付けられます。プラスチックの柔軟性を利用して取り付けられているのですが、画像のように一部だけカットすれば、より取り付け易くなりますワイヤーなどの処理用空間にもなります。カットする場合はパイプ受けの下図のふくらみを目安にします。



取付けには指が活躍します。

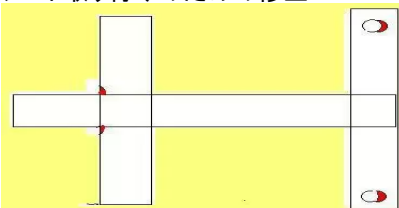


後ろ側は画像のようにカットします。フレームパイプ部との部分を狙ってカットします。プラ製で柔軟性があるので、いきなり大きく取らないで、合わせながらのほうが良い感じに組上がります。

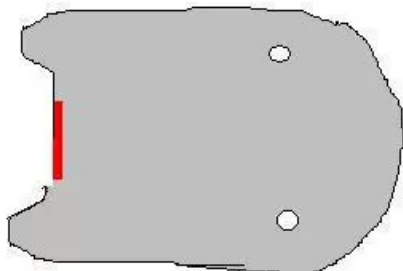
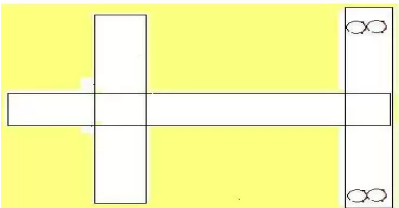
(画像を参考にし、切り過ぎないようにしてください)

カットが終了したら、シートで押さえ込みますが、ナイロンバンドなどでフレーム後部に取り付けてください。

シート取り付けのための修正

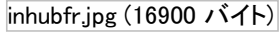


シートも欲張りすぎてギチギチになってしまいました。
① ステーをシートからはずして、ステープレートの穴と前側をやすりで修正してください。
② シート前端を表皮をそうとはがして、削るか切り取ってください。申し訳ありません。第2ロット生産が有る場合はでは修正します。



フロントフォーク取り付け
ヘッドパイプ上のアルミのカラーは、フォークがどうしてもヘッドパイプに組めない時には、当カラーの小径部を削って合わせるようにしてください。(それもあってアルミにしました。)

ホイール自体を丁寧に組立てます

front wheel ; center-hub  フロントセンターハブは下図を参考に ハメアイ部の塗料を上ヤスリなどで取ってください。(塗料厚のためです)

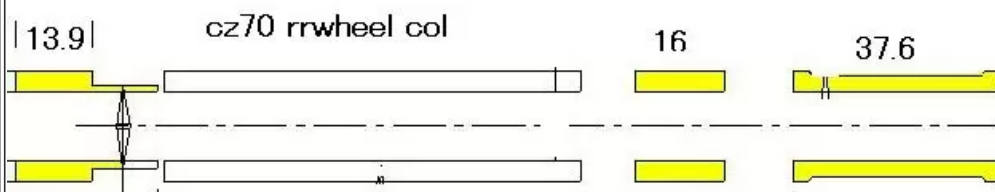


ホイールはカラーがブレーキパネルの内側にも使用しますので、画像を参考に組立ててください。
なお、このカラーを0.5ミリ薄くすると、より綺麗に組むことが出来ますが、パネルとドラムのクリアランスが小さいので、より丁寧に組む必要があります。
.フロントの部品の順序は図の通りです。
ブレーキパネルは フロントとリヤはブラケット形状が異なりますので、見分けてください。



リヤの部品の順序は図の通りです。

画像はオプションのアルミハブで表示してあります。



リヤホイールのハブは標準のときはカラーを段付き部分をカットします。推奨のオプションのアルミ削出しハブでは段付きカラーはそのまま使います。オプションのハブベアリング内径は標準より大きくしてあるからです。ベアリングは仮圧入ですので、**ベアリングの入りを確認**してください。
 カラー16ミリは14.5ミリに削って組むとベストになります。

ホイールをフレームに組むときの要領の一例

実は慣れると、全くこんな方法を取らなくても出来る事がわかりましたが、手こずる時は下記のように。

8cmくらい軸のあるドライバーかシャフトを、2本用意し、アクスルの代わりに使用すると組立てが簡単です。(この例ではドライバーを使用しています。)あるいは、フロントアクスルシャフトを利用して、全てのカラーをどうして、フレームにホイール全体で挿しこんだ後、リアアクスルと入れ換えるのも良い方法です。

- 画像のように、右端に入るカラー以外をセットにして、パネル内側のカラーが落ちないようにドライバーなどをを利用して車体に仮にリセットします。(右が少し下にある点に留意してください)

- 次いでブレーキパネルブラケットをフレームに差込みます。